

11月にSGH大学訪問、現地フィールドワークを実施しました。

SGH発展学習（国内大学との連携）

～共生社会、日本の国際貢献・国際理解を考える～

平成29年11月3日（金）京都大学、京都市国際交流協会

《目的》

大学で講義を受け、現地フィールドワークを行うことで、課題研究テーマへの興味・関心を喚起し、課題研究テーマの理解を深める。

《内容》

京都大学が高大接続・高大連携活動の一環として、全国的に展開している「学びコーディネーター事業」を利用して、**京都大学大学院人間・環境学研究科**の牧野広樹氏から、「『共生』について考える」というテーマで講義をしていただきました。質疑応答の場では、多くの意見が挙がり、活発な意見交換がなされました。**京都市国際交流協会**では、「ココラオープンデイ2017」に参加し、諸外国の様々な文化（食・音楽・言語など）を体感し、**多文化共生・国際理解**についての理解を深めました。



牧野氏の講義



生徒間の議論



京都市国際交流協会での研修

[参加生徒の感想]

「共生」を実現するには、表面上だけ仲良くするのではなく、異なる部分を認めあうことが必要だと感じた。理解していても、実際にそのような行動ができていないかを考えると、まだ至らない点が多いと思った。多くの人たちと表面上だけではなく、中身がある人間関係を築けるようにしていきたい。

私たちが英語を勉強しているように、日本語を学んでいる外国人がいることに気づいた。外国人が日本語を頑張って話そうとしているので、自分も英語を頑張ろうと思った。

世界には多くの文化、多くの食べ物があることを知った。様々な外国人と出会い、異文化に触れてみて、日本と密接に関わっているものがたくさんあると感じた。

本当の共生は「表面上の和」ではなく「対立」の中にあることを聞き、仲良くすることが共生ではないことを知った。共生という言葉が私たちが容易に使うが、その中で排除している人がいることに気づかされ、友達関係など身近なことにも当てはまると思った。

これからの生活で、身近に外国人や障がい者などに関わる機会が増えていくので、関わりを避けるのではなく、相手のことを知ろうとしていきたい。